

わたしたちは、医の倫理と人道・博愛の赤十字精神にもとづき、みなさまの健康に奉仕いたします。

HAT CROSS

神戸赤十字病院広報誌
2016 vol.36

二国間ケニア赤十字地域保健強化事業により海外派遣へ



健康教育のため集まっている住民。
ボラナ族の方々の前であいさつをしました。
日本式のお辞儀のウケがよかったです。



巡回診療チームの薬剤師、検査技師たち。
マラリアやエイズの検査をしたり、医師の処方に従って
患者さんに薬を渡したりします。



水浴びをするラクダ。
野生ではなく飼いらくダです。

当院ホームページのトップページより



ケニア赤十字地域保健強化事業の派遣要員の二星智恵子看護師がケニアで活動をしています。

この事業は、ケニアの首都ナイロビから北東に車で9時間かかる距離にあるガルバチュウラ県で行われています。ガルバチュウラ県は乾燥地帯で、暑い時は気温が40度を超えることもあるそうです。水不足が深刻で、水の確保が難しい所もあるようです。住民は一日1ドル以下で暮らしている者も多く、交通機関の発達していない中、最も近い医療施設まで数十キロある状況に置かれています。住民が予防接種や健康相談などの地域保健サービスを受けやすい環境を整えることを目的に、日本赤十字社はケニア赤十字社と協力して2007年からこの事業に取り組んでいます。

当院ホームページの「救護活動・災害訓練」「ケニア通信」にてケニアの風景とともに活動報告を掲載しています。ぜひ一度ご覧ください。



〜リハビリテーション科へ〜

神戸市立渚中学校、本庄中学校、筒井台中学校の三校の中学生が職業体験の一環として当院に來られました。みんなジャージを着用し、顔は緊張の面持ちです。まず、高橋第一係長によって『リハビリテーションとは？』という講義がありました。高橋係長が「リハビリって聞いたことある人？」と尋ねるとみな恐る恐る手を挙げます。「ケガをした人が歩いたり、トレーニングをしたりすることです」、「筋トレをする」、「元通りに戻るように練習する」など思い思いの意見を発表してくれました。改めて、講義によってリハビリテーションの意味について教えられた学生さんたちは、「初めて知った」と目を開かせていました。

次に実践です。物理療法チームと松葉杖・車椅子チームに分かれて、それぞれ体験をしました。「人間の体って何で動いているか知ってる？」高橋第一係長が尋ねます。そうすると「うん」とうなったり、「筋肉！」と答えたり、様々です。「正解は電気です！」そう応えようと、学生さんたちは「絶対嘘や！」とびつくりした顔で言います。そこで実際に自分の体に干渉波を当てると、筋肉が間欠的にびくびくつ…びくびくつ…と動きます。「うわあ〜！なにこれ気持ち悪い〜！」、「こしょばい〜！」元氣な声がりハビリ室に響き渡ります。これには周囲で業務に励んでいるスタッフたちも笑みがこぼれます。他にも超音波の振動を目で見たり、重錘バンドを足首に巻いたりして物理療法を学びました。

一方、松葉杖チームは初めて使う松葉杖と車椅子になかなか慣れません。高橋第一係長と高橋第二係長が手取り足取り学生さんに教えます。リハビリ室の中をぐるぐる1周、2周もするとみんなだんだん慣れてき



たのかスピードが速くなってきます。学生さん同士でコツを教えあったりして、わきあいあいとした中、リハビリテーション科の見学の時間が終わりました。

1時間という短い間でしたが、リハビリについて、物理療法について、松葉杖・車椅子の使い方について学生さんたちに伝えることができました。トライやるウィークをきっかけにリハビリに関わる職種を目指す学生さんが増えてくれたら、とても嬉しいです。今後、リハビリテーション科としても職業体験の内容を深めていきたいと考えています。



リハビリテーション科部 理学療法士 松本 志保理



リハビリとは何？を真剣に聞く学生たち



初めての松葉杖にチャレンジ！

“地域へ学ぶ「トライやるウィーク」受入れています”

中学生を対象とした「トライやるウィーク」をご存知ですか。「トライやるウィーク私も〇〇事業所に行きました」「子どもが行きました」という方も多いのではないのでしょうか。

「トライやるウィーク」実施の背景は、震災を経験した兵庫県が平成10年より子どもたちに「生きる力」を育む教育の一環としてスタートした活動です。

当院も看護部が窓口となり、毎年春と秋に神戸市内の中学校を2〜5校程度受け入れていきます。

生徒の興味関心がある各事業所に学校から受入れ依頼がありますが、最近では医療職への関心は高く時期が重なることやむを得ずお断りするほどの状況です。けれども一番人気は飲食店や保育関係の事業所ようです。



活動は主に看護師の仕事の見学や体験をします。病棟で看護師の仕事の忙しさに驚き、感想文で一番多く書かれる事は「看護師のコミュニケーション能力に感動した」ということです。テレビの世界でしか知らない手術室やICUでは目をさらにさらさせています。

生徒の希望は看護職だけではありません。様々な部門に協力いただき、生命に関わる専門職について知る機会として、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、放射線技師、臨床検査技師の仕事を見学・体験をします。昨年は医師志望の生徒が多く、外来診察場面にも立ち会いしました。『こんな仕事がある事を知った、将来の目標が変わった』と生徒の視野も

広がります。保護者が医療職の生徒も多く『お父さん、お母さんの仕事の内容を知った。すごいと思う』など親への尊敬の声もあります。

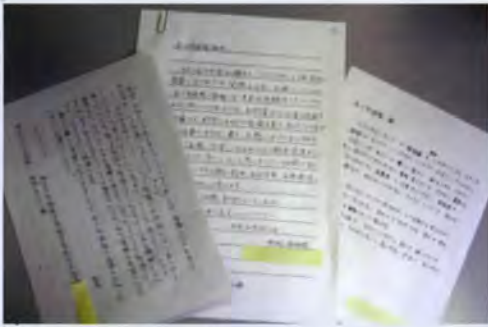
3日間という短い期間ですが、挨拶・言葉遣い・礼状などの社会のルールやマナー、生命の大切さ、相手を思いやる気持ちに触れ、生徒の成長を感じる場面もあります。

多くの職員、そして患者さまからも生徒に温かい言葉をいただき本当に感謝します。

当院での体験を通し生きる力を育み、生徒一人一人が自分なりの生き方を見つけるきっかけになることを願うばかりです。



看護部 看護副部長 松本 ゆかり



トライやるウィーク終了後に届くお礼状



体験作文集

基本方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重し、根拠に基づいた、安心と満足が得られる医療を提供します。
2. 地域医療機関と連携して、地域全体で一貫した医療を提供します。
3. 救急医療、災害救護・国際救援活動を行います。
4. 内外の医療従事者の育成に努めます。
5. わたしたちは、日々研修・研鑽し明るく活力ある職場づくりに努めます。

神戸赤十字病院「患者の権利に関する宣言」

神戸赤十字病院は、医療の中心は患者さまであり、医療行為が患者さまと医療関係者との信頼関係の上に成り立つものであることを深く認識し、ここに、「患者の権利に関する宣言」を制定いたします。

当院の全職員は、この「患者の権利に関する宣言」を守り、患者さまの医療に対する主体的な参加を支援してまいります。

1. 一人の人間として、その人格・価値観などを尊重され、医療提供者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。
2. だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
3. 病気、検査、治療、見直しなどについて、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報を受ける権利があります。
4. 十分な説明と情報提供を受け、納得したうえで、検査や治療方法などを自分の意思で選ぶ権利があります。
5. 自分が受けている診断や治療について、他の医師の意見を求める権利があります。(セカンドオピニオン)
6. 自分が受けている医療を知るために、診療記録の開示を求める権利があります。
7. 研究途上にある医療に関して、目的や危険性などについて十分な情報提供を受けたいと、それを受けるかどうか決める権利と、何らの不利益を受けることなくいつでも中止を求める権利があります。
8. 診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られ、病院内での私的な生活を可能な限り他人にさらされず、乱されない権利があります。



神戸赤十字病院 フットサル部



実は私たち……
こんなこともやってます!



近畿地区赤十字病院球技大会開催報告

今年1回、近畿地区の赤十字病院12施設が一同に集まり、球技大会を開催しています。昨年はみごと、当院のフットサル部が優勝、卓球部とソフトテニス部が4位入賞を果たしました。優勝したフットサル部は、今年の全国大会に出場予定です。業務以外でも「日赤チームワーク」を発揮し活動しています。